

石膏型技術研究会

常世田 茂* 尾形 尚子*

1. はじめに

笠間焼は現代的な陶芸産地として発展するために、知名度・ブランド力の尚一層の向上が求められる。そのために必要な窯元・陶芸家の造形力・アイデアを研鑽する場として今年度参加企業22社にて研究会が発足した。

2. 目的

笠間焼の強みである伝統的なものづくり技術を継承しつつ、窯元・作家が持つ現代性（造形力やアイデア性）を加味した製品づくりを当校が保有する石膏設備や技術指導のほか、外部講師による勉強会等で支援を行なったので報告する。

3. 研究内容

3.1 次世代3DCAD勉強会

○テーマ：次世代3DCADと3Dプリンター

開催日：平成29年6月8日

- ・第1回次世代3DCAD体験の受講
- ・3Dプリンター見学

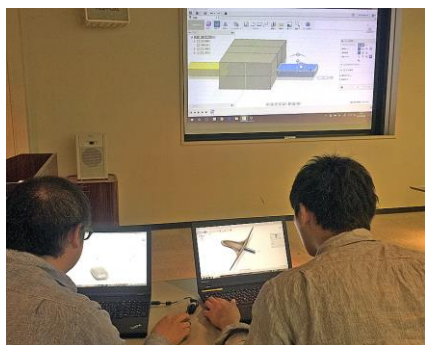


図1 講習会・見学会の様子

○テーマ：次世代3DCADセミナー

開催日：平成29年8月25日

- ・第2回次世代3DCAD体験の受講
- ・三次元モデル加工見学



図2 講習会・見学会の様子

○内容

これからのものづくりを変える新技術である3DCADについて、工芸陶磁器での利用を検討すべく工業技術センター・デジタルものづくり研究会が主催するセミナーに参加した。

講習会では原型モデルデータの作成などについて学び、またセンターが保有するCAD/CAM機器の見学会を行なった。

3.2 原型づくり講習会

○開催日：平成29年9月28日

○講師：高橋 清 氏（益子製型所 代表）

○内容

ものづくりの現場では熟練工の高齢化や後継者不足・工具や機器類の廃版など、ものづくりを取り巻く状況は厳しくなっている。石膏型も多分に漏れず職人の引退が相次いでいるので、50年以上のキャリアを持つ職人を講師とした技術講座を開催した。

熟練石膏型職人の指導のもと、図面の原型を効率的に制作・仕上げる手法を中心に技術の研鑽を実施し、職人の仕事ぶりや視点・考え方を中心に習得することが出来た。



図3 講習会の様子

3.3 石膏型造形講座

○開催日：平成30年1月16日

○講師：板橋 廣美 氏（佐賀大学/多摩美大他講師）

○内容

笠間焼の生産は平成7年をピークに減少を続けてい

一方、SNSを中心に話題になって生産が間に合わない窯元なども存在する。

こうした使う側の琴線に触れるものづくりやオンラインの製品づくりに必要な発想力・アイデア力を鍛える講座を開催した。

講座では通常石膏型製作では考え付かない手法や、合理的な考えに基づく解説を頂き、参加者は固定概念を払拭する重要性を学ぶ事が出来た。



図4 講習会の様子

4. まとめ

本年度研究会でのアイデアや制作時間の効率化などの取組みから図5の製品が生まれた。



図5 石膏型を使った新製品
上) オリーブレリーフ皿, 下) 絵付けの器

○次年度の計画

- ・新しい価値を持った製品開発につながるよう来年度も勉強会や交流会を積極的に行う。
- ・簡易ケース型による使用型量産技術について研究を行う。

5. 謝辞

本研究会に講師として多大な指導を頂いた各講師のみなさまに深謝の意を表します。